栗原圏域内支援者研修会　　2007.2.27.

「障害児（者）への専門的支援のあり方」・レジメ

阿　部　幸　泰
（「雑学」HP：　http://www.h4.dion.ne.jp/~dekunobo/　）

Ⅰ：支援者とは

①支援活動（教育、療育、育児を含め）とは
「あえて比較せず、生きようとする生命の互いに輔け合いながら、
生きるとはどういうことかを問い続ける活動。」

②「専門家は、指導や助言以上に、親の不安感を取り除いてください。
親にエネルギーをいっぱい与えてください。
そうすれば親子で前向きに生きていく勇気が生まれます。
それは、障害を治すことと同じくらい、いえ、それ以上にありがたいことです。」

③「人間相手（支援等）の仕事には、ゴールはない。
係わるだけでなく、係わり合い続けること。
知識と技術に裏打ちされた知恵をいかに働かせるかのチャレンジ精神と、
自らを検証する勇気が必要。　←　プロの資質」

Ⅱ：関係機関・者の連携とは

すぐれたネットワー クとは、まず情報を共有し、地位や立場とは関係なく、

①（担当のケースに抱く）個人的で感覚的な不安や感想も話題にできるような、ざっくばらんな場であることがとても重要。

②そのケースに関わる周囲の人たちが、お互いの大変さや内面の揺らぎを、仲間として支え合うこと。

Ⅲ：当事者（家族）と係わり合う折の留意すること

①相手を理解するのでなく、相手が自分を理解者と認めてくれる関係を築く。

そのために

1）係わり合い、寄り添い続ける覚悟のあることを伝える。
2）こちらの想いを先に伝えず、相手の心情の言葉に共振しながら発信する。
3）ささやかなことでも、周りの人と、及び、家族間でも係わり合うことの喜びを感じてもらうように工夫し、伝える。
4）信頼感を抱いてもらうように、相手の発信を受信したことを、あまり間を置かずに必ず受信行動を発信する。
5）家族それぞれが、まず一人の人間として生きる力を育んでもらえるように、ヒントを提供する。

Ⅳ：質　疑